



第3章を学習するにあたって

千葉県教育委員会では、子どもたち一人一人が楽しく「食」について学びながら、自らの食生活を振り返り、望ましい食習慣を身につけられるよう、食に関する指導を推進している。

本章では、食を「心と体の栄養」ととらえ、食についていろいろな角度から学習することにより、「豊かな心」と「健康な生活を送ろうとする態度」をはぐくむことを目的としている。

具体的には、「飽食の時代」、「食に込められた『ちから』」、「おいしく食べる」、「食の宝庫」、「地産地消」、「ちばの食文化」などについて学習を進める。

1－(1) 飽食の時代

「ハンガーマップ」などを教材として、世界の食料事情に目を向け、諸外国とわが国の食料事情の違いから、食への感謝、わが国の食の問題点、食の豊かさが生み出している新たな課題などに目を向けさせたい。食の学習を通し、物の豊かさの陰で、人や物への感謝の気持ちや、我慢する力が失われてきていることにも気づかせるとともに、物の豊かな時代の中で、どのように生きていくことが望ましいのか、世界に目を向けたとき、何をしなければいけないのかなどを話し合わせることも重要である。

1－(2) 食の「ちから」

①植物・動物の生命を食物としていただいていること、②食材が料理として口に入るまでには、様々な人々の願いがあることなどに気づかせ、食への感謝の気持ちを持てるようにさせたい。昔、自給自足をしていた時代では、自宅で様々な植物が栽培されていたし、家畜も大切に飼育されていた。それゆえに家畜の「いのちをいただく」ことへの深い感謝が生まれてきた。

しかし、加工・流通が複雑になり、「いのち」が消費者の目に見えにくくなっていることにも気づかせ、いのちをいただく意味を考えさせたい。また、食材が料理として口に入るまでに込められた願いを明らかにすることは、注がれている愛情に気づくことにもなるだろう。このようにして、食に込められたちからに気づか

せることが生徒の心の栄養をはぐくむと考え、この学習が準備されている。また、体の栄養をはぐくむために日本型食生活が、栄養バランスに優れていることに気づかせ、望ましい食習慣に目を向けさせたい。

1－(3) おいしく食べる～健康に生きる～

おいしく食べるために、①マナーを守ってみんなと食べること、②食べ物の旬を知ることなどについて学習する。会話を楽しみながら食べるとおいしく感じるのは、おいしさが単に栄養や味付けだけでなく、心のあり方の影響を受けるからである。だからこそ、おいしく食べるためにマナーを守ることが必要となる。

また、旬については、スーパーに行けば、いつでも様々な食材が豊富にあることから、分かりづらい時代になっている。食材の旬を知ることにより、季節を感じることは、食を心で味わうことにつながるであろう。

2－(1) 食の宝庫 (2) 地産地消＝千産千消

千葉県の食の豊かさについて学ぶとともに、地産地消（千産千消）の意義や利点について環境との関連も含め考えさせたい。

また、この学習を広げて食料自給率に目を向け、日本の農業政策について討論させれば、自分たちの国の将来を食という視点から見つめることにもなるだろう。

2－(3) ちばの食文化

千葉県の郷土料理に込められている先人の食に対する工夫や知恵に目を向けさせたい。千葉県の食文化は、いわば郷土の歴史の中から生み出されてきた産物である。先人の食に対する工夫や知恵に目を向けることを通して、歴史の中で生み出された食文化を大切にしていこうという気持ちを育てていきたい。